

コミュニティはこう作ろう！ ～岩手のe-コミュニティを例として～

岩手大学情報メディアセンター

吉田 等明

岩手のe-コミュニティ(1)

- 岩手大学情報処理センターが、中心になって作り上げてきたe-コミュニティの主なもの
- ネットワーク連絡会
 - 岩手県のコンピュータネットワーク関係者を中心にした、産官学民の交流の場
 - 岩手のコミュニティの草分け的存在
- IPv6活用研究会
 - IPv6の活用に関する産官学民の交流の場
 - ネットワーク連絡会, SPERNg研究会などから派生

岩手のe-コミュニティ(2)

- SPERng研究会(すぱーりんぐ)
 - 教育, 情報, エコロジー等を取り扱う産官学民の交流の場
 - 教育と地域の情報化を考えるシンポジウム(SPER)より派生
- COMMET—Morioka
 - 盛岡の小学校教諭と, ボランティアから構成される
 - SPERng研究会より派生
- COZMIXNG(こずみくしんぐ)
 - コネクティビティを求めていた地域IXであるCOZMIX(こずみっくす)より派生。サービスの充実をおし進めている。
 - 大学間にまたがる学生中心のコミュニティ

e-コミュニティ

- E1. インターネット技術を利用した「人が集まるグループ」であること
- E2. インターネット技術を利用して「他のコミュニティとの交流」を行っていること
- E3. インターネット技術を利用して、メンバー同士、または他のグループメンバーと共通の結びつきを持つこと
- E4. しばしば集会を開催し、オフラインにおける交流を促進し、メンバー同士、または他のグループメンバーと共通の結びつきを持つこと

e-コミュニティで何が得られるか？

- 共有
- ボランティア的な活動
- 縦割り社会の打破

e-コミュニティで何が得られるか？

- 共有
 - － 時間・空間の共有：仲間意識
 - － プロジェクト・仕事の共有
 - － 特有の興味を共有 (COI)
 - － コミュニティ・ドメイン・ソフトウェア (CDS)
 - － 自分が不要でも人にとっては宝物
 - ジャンク品の交換
 - － ちょっとしたものを持ち寄って共有する
幸せ
 - クッキーコミュニティ

e-コミュニティで何が得られるか？

- ボランティア的な活動
 - 親切, いたわりの心の伝染
 - Q&A 疑問も即座に解決
 - 人や物を探す
 - 無償で融通しあう
 - お友達を作る
 - オンラインコミュニティでは困難

e-コミュニティで何が得られるか？

- 縦割り社会の打破
 - － 横のつながりによる新しい人間関係
 - － 組織的制約の軽減
 - － 地理的制約の軽減
 - － 徳川幕府のような意思決定システムを打破

e-コミュニティに特徴的な目的

- コミュニケーション不足に由来する社会問題を解決するために、人と人との間の交流を促進する。
 - 核家族化，老人の孤独化や，子どもを育てられない親の問題など
- ソフトウェアのバージョンアップや，ハードウェアのリプレースの中で，変わらずに保ちつづけることができるITの普遍的機能とは，「コミュニケーション」という基本機能である。

e-コミュニティの構成要素

- ①恒久要素:固有の名称,発起人,コアメンバー,
リソース(コミュニティの規約など)
- ②一時要素:会員,アクティブ・メンバー,
リソース(論文,報告,講演資料など)
- ③コミュニケーションツール:webサイト,電子掲示板,電子メール,
メーリングリスト,チャットルーム,個人情報入力ツールなど

大きく分けてコミュニティの会員は,中心的な責任と役割を果たすコアメンバー(あるいは発起人),活動に積極的に参加するアクティブ・メンバー(コアメンバーでもある場合も多い),そして一般会員からなる。また,コミュニケーションツールは,オンライン・コミュニティの1種である以上,必須の要件である。

オンラインコミュニティの問題点

- (1) 閉鎖的になりやすい
- (2) オンラインで新しい友人を得るケースは少ない
- (3) 現実と乖離したコミュニティの危険性
- (4) 文字ベースのコミュニケーションの難しさ
- (5) ボランティアの信頼性の問題
- (6) 主催者の都合で閉鎖される

欠点を克服する開かれたコミュニティ

- 解放的なコミュニティの構築
 - コミュニティ間の交流や結合
 - メンバーの交換・共有（特にアクティブ・メンバー）
 - リソースの交換・共有
 - プロジェクトの共同, イベントの共催
 - 友人作り
- 現実と乖離した活動を避ける
- 文字ベースのコミュニケーションの限界を知り, オフラインでの会合を大切にする
- 一般ボランティアをあてにせず, コアメンバーで活動の核を作る
- 主催者の都合で, せっかく育ったコミュニティを閉鎖しない

e-コミュニティを利用した活動例

- 地域連携に基づくブロードバンドを活用した多地点間遠隔授業
- 盛岡市子ども科学館, 及川敏
岩手大学 中西貴裕, 吉田等明
- テレビ会議システムを用いた多地点間遠隔授業
- Bフレッツ・グループアクセス
- 授業に活用できる
 - 試行授業の様子及び従来システムとの比較、回線特性の調査
 - 多地点間遠隔授業を行う際に注意すべき事項の検討
- 地域コミュニティによる人的つながりが成功の原動力

e-コミュニティを利用した活動例

- 接続場所(4地点)
 - － 日本科学未来館(東京)
 - － 盛岡市子ども科学館(盛岡)
 - － 岩手大学総合情報処理センター(盛岡)
 - － 岩手県立総合教育センター(花巻:配信のみ)
- 参加者
 - － 日本科学未来館 毛利 衛 館長
 - － 盛岡市立本宮小学校4年37名(子ども科学館)
 - － 盛岡市立河北小学校6年43名(岩手大学)
 - － 花巻市立湯口小学校4年38名(総合教育センター)

e-コミュニティを利用した活動例

- 接続回線
 - － 岩手県の情報ハイウェイを使った「いわて教育情報ネット」と、岩手大学を予め接続(県立高校100校に対して接続)
 - － 岩手大学, 子ども科学館, 日本科学未来館の3地点はNTT地域IP網を使用したフレッツ・グループアクセスによる固定IP接続
 - － 総合教育センターは岩手大学ストリーミングサーバーを經由し, いわて教育情報ネットにより接続した
- 使用機材: テレビ会議システム
 - － ViewStationSP 2台
 - － ViewStationFX 1台
- ボランティア協カスタッフ
 - － Bee Creative A,C.
 - － (株)ドリームラボ

e-コミュニティを利用した活動例



花巻会場の様子: ボランティアによる予備授業

e-コミュニティを利用した活動例



毛利館長の映像(花巻会場)

CAUAシンポジウム2004仙台

e-コミュニティを利用した活動例

- 多組織間にまたがるイベント実施計画を，e-コミュニティで培った人脈で短期間に実現
 - 時間がかかるようでは実現不可能。一つ返事が原則
 - 岩手大学と盛岡市こども科学館の強力なチームワーク
 - 岩手大学内のチームワークも勿論，重要
- 縦割り社会の乗り越え
 - 広範囲のネットワーク接続を短期間に実現
 - 学校教育課，県の情報ハイウェイ担当部署，業者
- ボランティア
 - 教育委員会や学校との折衝
 - 毛利館長の宇宙授業の前に，理解を助けるための授業の実施
 - 記録，マスコミ対応

これからのコミュニティ

- 開かれたコミュニティを作ろう
 - － コミュニティ間で交流を
- オフラインの会合を重要視しよう
 - － 温泉や酒席も重要，茶話会も良い
- コネクティビティより，サービス志向で
 - － 地域ポータル
 - － 地域コミュニティ交流サイト

これからのコミュニティ

- いつの世も、基本は人間関係
- ネットワークで善意に出会ったら、今度は、自分から善意を示しましょう
 - すぐフレーミングと判断せず、助けになっていると考えてみよう
- 明るく元気に溢れたコミュニティ
 - 人員削減・経費節約ばかりでは暗くなります
 - フレッシュな精神，チャレンジ精神

参考文献

- 地域情報化の基本的な考え方
— 地域を豊かにする情報化とe-地域コミュニティ —
岩手大学 吉田等明, 協力 SPERng研究会有志
<http://kilkhor.cc.iwate-u.ac.jp/sperng/doc/chiiki1.htm>
- 地域を活性化する「開かれたオンラインコミュニティ」
岩手大学 吉田等明, 中西貴裕
Computer & Education vol.16, pp.20-27, 2004.
- 地域連携に基づくブロードバンドを活用した多地点
間遠隔授業
盛岡市子ども科学館, 及川敏
岩手大学 中西貴裕, 吉田等明
Computer & Education vol.16, pp.28-32, 2004.